

2024年度 12月 2日

オ リ ー フ 通 信



さあ、ベツレヘムへ行こう。

ルカによる福音書2章15節

神愛保育園

「12月をむかえて」

日が暮れるのが、一段と早くなり、冬の到来を感じさせる寒い時期になりました。その冬の訪れとともに、クリスマスの時期を迎えることとなります。

保育園では、この時期、どの部屋からも讃美歌が聞こえてきます。それぞれのクラスで年齢に応じ、イエス・キリストの誕生をお祝いする準備をしています。

幼児クラスは、親子クリスマス会においてページェント(イエスキリストの聖誕劇)の練習が始まっています。キリスト教保育を行う神愛保育園にとっては、大きな行事の一つです。

このページェントの役決めは、それぞれの子どもの思いや、願いが交錯し、時間がかかります。そのため、役が決まったら子ども達も納得感があるようで、あとは本番まで一生懸命練習をしている姿があります。礼拝の中で演じる重要性はもちろんですが、本番までの子ども達の様々な心の動き、多くの葛藤、喜怒哀楽の成長の過程が含まれていて、一人ひとりの子ども達がそれぞれ自分自身の個性を輝かせ、クラス全体がまとまって作り上げる関係性は、とても素晴らしいものです。

さて、クリスマスはもともとローマ帝国の中で多くの人々が信仰していた宗教の冬至のお祭りでした。太陽の力が弱くなるこの日に、太陽のよみがえりを願っていたようです。その後、ローマ帝国が国教をキリスト教にした時、この宗教のお祭りを取り入れることで、人々をキリスト教徒にしていたという歴史があります。また、クリスマス物語で語られる人口調査は、実際ローマ帝国が植民地としていたユダヤ地域で行っており、税収と徴兵の確保のためであったことがわかっています。子どもたちが演じる役は、話の中の光の部分、神の誕生をお祝いするという内容を演じます。しかし、聖書には詳しくは語られていない、当時の歴史や社会状況から推測される、影にあたる部分があります。それは、私たち人間の弱さ、現代社会にも通じる人々の苦しみや悲しみです。そこに、クリスマスが輝き、お祝いをする本当の意味が隠されているようです。

イエスの生まれたベツレヘムは、現在戦闘が行われているガザと同じパレスチナ自治区内にあります。今年も、このような平和とは程遠い中で迎えるクリスマスです。しかし、子どもたちには、保育園のページェントで演じる、神の子イエスキリストの生誕を素直に喜びをもってお祝いしてほしいと思います。同時に、ページェントの練習やクリスマスの準備を行う期間の様々な話を通して、平和を大切に、

悲しんでいる人、泣いている人の思いに気が付き、幼児は幼児なりに、他者のことを思い自分のできることを探してほしいと願うからです。

神愛保育園園長 鵜澤由記子

重要なお知らせ

12月2日以降、マイナンバーカードの保険証移行が開始され、新規の発行がなくなります。現在園では、怪我などで通院した際にはお子様の保険証を保護者の方からお預かりしています。現在の保険証は、来年の有効期限まで使用できるので、園では2025年3月末までは今まで通り保険証をお預かりして病院の会計に行くという手順を取りたいと思います。そのため、当分の間は現行の保険証をお手元に置いていただけますようよろしくお願いいたします。次年度の取り扱いに関しては、2月に予定しています懇談会でお伝えいたします。

保健だより 2024年12月



朝晩の冷え込みが厳しくなり、冬の到来を感じ始めました。また乾燥が気になる季節となりました。園では、加湿器を使い湿度管理をしています。子どもたちは寒い日は散歩用の上着を着て、元気に屋外活動を楽しんでいます。環境面など気になることがありましたら、声をお掛け下さい。

【この時期の感染症】

春先から流行し始めた手足口病・マイコプラズマ感染症は、まだ地域でピークアウトしていません。また、インフルエンザの流行が地域で始まりました。この時期は夏の感染症と冬の感染症が混在する時期で、注意が必要です。手足口病は手・足・口内の発疹から始まり、風邪のような症状もみられます。マイコプラズマ感染症とインフルエンザは発熱から始まることが多く、こちらも風邪のような症状がみられます。このような症状があったら、受診していただき検査を受ける事をお勧めします。

この3つの疾患で、意見書が必要なのはインフルエンザのみです。

《歯科検診》

11月13日（水）歯科検診が実施されました。幼児クラスでは名前をはっきりと言って、終わったら「ありがとうございました！」と挨拶する姿がありました。極端な虫歯のお子さんはいませんでした。かみ合わせなども含めて、経過観察や受診が必要なお子さんにはお知らせを配布しています。

健診後、歯科衛生士の先生による歯磨き指導がありました。



《歯磨きのお話し》

健診後の歯磨き指導。歯科医師と歯科衛生士の先生の登場に、子どもたちは少し緊張気味の様子もありました。大きな歯の模型が出てきて、子どもたちは興味津々。歯を磨く順序や、優しく磨くことを学びました。実際に歯ブラシを持ち、座って歯磨きをしてみた子どもたちでした。ご家庭でも仕上げ磨きを宜しくお願いします。



食事だより



♪ついに大豆の収穫をしました♪

種まきから約半年、枝豆の収穫を経てついに大豆を収穫することが出来ました。やはり畑と違って乾燥し過ぎたものや、少し傷んでいるものもありましたが、きれいな大豆もたくさん採れました。

鞘は緑のきれいな時とは違って、乾燥して茶色や黒っぽくなっていたので、ちょっとだけ触るのを躊躇する子どももいましたが、中に入っている大豆を見つけると取り出す事に集中して、すぐに終わってしまいました。

「これ何かに似てない？」と質問するとすぐに「種だ!!」と気づき、「これ蒔いたらまた芽が出るかなあ？」と話していました。この大豆でどんな食べ物を作りたいか話し合い、豆腐や納豆など色んな食品が出たのですが、まずは『きな粉』を作ることにになりました。その様子もまた食事だよりで報告しようと思っていますのでお楽しみに♪



ひだまり ～地域の親子と園児の交流～



今年も早いもので残すところ1ヶ月足らずとなりました。皆様にとって、どのような1年に感じられましたか。

11月のひだまりは「神愛まつり」母親講座「親子体操」秋の遠足「清澄公園」と行事が盛りだくさんでした。神愛まつりでは、幼児クラスの園児に圧倒されながらもボーリングに挑戦したり、ヨーヨーの製作をひだまりに持ち帰りシールを貼って完成させました。

母親講座の親子体操は、ボディタッチ、手遊び、音楽に合わせて身体を動かしたり、お母さん向けの骨盤矯正や腰痛に効く運動を教えてもらい参加者からは「家でもやりたい」という声が聞かれました。

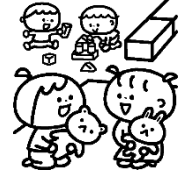


秋の遠足の清澄公園では、どんぐりや落ち葉を拾いハリネズミを作りました。

水溜まりに入って見たり、シャボン玉を追いかけて濡れた芝生の上をハイハイする姿もありました。



ともにそだつ



私たちは、保護者の皆さんと共に子育てをしています。
園の中での子どもの様子を伝え、子どもの育ちを共に考え、
喜びを共有したいと願いながら、この保育日誌紹介のコーナーを
設けています。ともに子どもから学んでいきましょう。

2024年11月15日（金） 天気 雨 たんぽぽ組（1歳児）

それぞれの思い

今日はあいにくの天気だったので室内で過ごした。AはBが人形で楽しそうに遊ぶ姿をみて、一緒に遊びたかったのか側に駆け寄る。そして、Bが持っていた人形を取ってしまった。大量の涙を浮かべていたBだが、なかなかAに思いが伝わらずにいた。すると、離れて遊んでいたCが自分の使っていた人形をBに貸してくれた。自分の思いを出せるようになった子どもたちが、相手の思いに気づきお人形を渡しに行く姿が素敵だと感じた。

この日はBが人形のお世話あそびをしていたのですが、Aもお世話あそびが好きでよく遊んでいます。楽しそうに遊ぶ姿を見てAも遊びたくなったのか、傍で見ているうちに自分が遊んでいると勘違いしてお人形をもっていったのかもしれないですね。Bは、自分の悲しい気持ちを涙を浮かべて表現していたものの、思いが伝わらずにいました。少し離れていたCは涙を浮かべているBの気持ちが分かったようで、ずっと自分の使っていたお人形を渡してくれました。まだまだ自分の思いを言葉で伝えることは難しいですが、今までの経験からCは察してくれたようです。Bも自分の使っていた人形ではないけれど、自分の悲しい気持ちを理解してくれた、自分のことを分かってくれたと実感したことでまた遊びに戻ることができました。

友だちが泣いているのに気が付く姿は0歳児でも見られますが、1歳児はその子どものところに行って慰める行動に変化が見られます。慰めるつもりが、かえってトラブルになることもあります。その子どもの好きなもの（おもちゃなど）を示したりして慰めようとしたりもします。自分に気づくようになった子どもは他者にも気づき、その気づきをもとに関わろうとする姿がみられるようになります。今回のように微笑ましい関わりばかりではないですが、子どもたちの関わりたい気持ちにも寄り添いながら、それぞれの思いを橋渡しして今後も子どもたちの成長を見守りたいと思います。



2024年11月14日(木)

天気 はれ

ひまわり組(年中)

「またみんなでいきたいね～」

今日は園外保育で両国公園にいった。遠足を楽しみにしていた年中の子ども達。「早く行こうよ」とA、Bは9:15には急いで片付けて出発の準備をしていた。予定どおりに出発し、子どもたちみんなが初めて行く道に興奮しながら歩く。Cも車が通るので興味を持ってきょろきょろしながらベビーカーから見ていた。両国公園では始めのうちは小さい滑り台の船でみんなで遊んでいたがそのうち飽きてきたので「大きい滑り台に行く？」と保育者が声を掛けると「うん」という返事でみんなで行った。しかし、D、E、Fは高いのが苦手なこともあり、よじ登るのを避けていた。そこへ、GやHが「大丈夫だよ」「こわくないよ」と声をかけて、友だち同士で教え合っていた。そして、3人は登ることができ、滑れることへの自信もついたことで、何度も滑りやる気に繋がっていた。Iも怖がらずによじ登り、最後はみんなで手をつないで楽しんで滑ることができた。そしてG、Hが今日休みだったOがいないことを気にかけて「こんどOちゃんも一緒にこようね」と保育者に言ってくれた。この言葉を聞いて、子どもたちの中に仲間としての思いが育っていることを感じて嬉しく思った。

今年の3月お別れ遠足がありました。その時、3・4・5歳児で構成された幼児グループの1グループが両国公園に行きました。今回、どこの公園に行きたいかと子どもたちと相談した際に、数か所の公園の写真を見て、両国公園が楽しかったことを思い出した子どもの提案で行くことになったようです。今回年中になってみんなで行くことができたことは、本当に楽しかったようです。そこで食べたお弁当の話など子どもたちからいっぱい聞くことができました。

この日誌を読んで、年中児さんの大きな成長の姿を見ることができます。夏ごろまでは、まだまだ自分のことが中心となり、時には遊びの中で自分の思いが先立ってしまう姿を見ることがもありました。しかし、今では、クラスのお友だちの気持ちを感じ取り、力づけたり励ましあう姿が見られ、クラスとしてのまとまりが出来上がりはじめていると感じます。滑ることが難しいお友だちも、少し前までは、できないことに対して泣いてしまったり、別のたやすい方向に流れてしまいその場から離れてしまう姿がありました。しかし、今回は、クラスの皆で手をつなぎあって一緒に滑るということができたようです。小さな出来事ではありますが、子どもたちにとっては、自身につながる大きな一歩になったのだと思います。また、お休みしているお友だちに、また一緒に遊びに来たいという他者への配慮は、本当にうれしく感じる出来事であり、大人が忘れがちな、明日に希望を託すという子どもの姿に、心動かされるエピソードでした。



